

研修体系設計に係る検討

氏名 ＊総括：樋渡美千代副所長（研修課長）
●主担当：早坂和重主任指導主事 ◎副担当：畠中指導主事
○担当：岸指導主事 斎藤指導主事 布施指導主事
丹野研究・情報課長 田中指導主事 芳賀指導主事 澁間指導主事
森特別支援教育課長 工藤指導主事

[キーワード] 学び続ける教師、省察、自己更新

I ね ら い

これからの山形県の教師の学び・研修の在り方を見出す。

II 趣 旨

「令和の日本型学校教育」の構築や教特法一部改正に伴い、山形県としての教師の学びや研修の在り方について、多面的に検討を行い、これからの研修体系検討の基礎となることを整理・分析する。またその基礎をもとに、具体的な講座の内容・方法を検討する。

III すすめかた

1 研修体系設計に係る基本理念の検討

- (1) 本質観取
- (2) 各種資料調査（※主な参考文献）
「ポジティブ心理学の挑戦」 マーティン・セリグマン（2014）
「省察的实践とは何か プロフェッショナルの行為と思考」 ドナルド・A・ショーン（2007）
「専門職としての教師の資本」 アンディ・ハグリーブス マイケル・フラン（2022）

2 研修内容・方法についての検討（主に上期）

- (1) 専門研修講座の改編
- (2) 振り返り、アンケートの検討

3 研修履歴についての検討（主に下期）

IV 要約とこれからの課題

1 要 約

山形県において「学び続ける教師」を目指すことに変わりはない。その具体的な教師の姿は「省察しながら、自己更新し続ける教師」である。

本年度の取り組みから言えるのは、人は、一方的な情報伝達や一人だけの場では、学びにくさを感じるし、実際に学ぶににくいのではないかということである。先生方が日ごろの実感をそのまま出せる研修講座にすることが、まず大切であると捉えた。しかし、それは講座において、ただ闇雲に語り合えばよいということはない。

2 これからの課題

研修で目指すのは、学びの質の向上である。何のために、何を、どのように語り合うか、その具体が今後の課題である。この課題に取り組むに当たっては、センター職員自身が主体性を最大限に発揮し、学びの本質を自ら問い続けながら、調査・研究と講座構築の往還に取り組む中で、学び続けることが必要である。